

NISSYO DX戦略

1. トップメッセージ

株式会社NISSYOは、特注トランスや制御盤の設計・製造を通じ、半導体装置、データセンターや鉄道インフラといった世界の進化を支える「電源供給の心臓部」を送り出しています。2022年のDX認定、2024年の経済産業省「DXセクション」選定を経て、当社の変革は「ITを導入する」段階から、「デジタルを前提に経営そのものをアップデートする」段階へと発展しています。

現在、製造業は生成AIの急速な普及という歴史的な転換期にあります。当社はこの変化を、時代に即した新たな武器を手に入れる好機と捉えています。当社のDX戦略の中核は、自社制作したクラウド型ポータルサイト「アスヨクDX※1」です。現場のあらゆるデータを集約・可視化し、迅速に分析・共有することで、ベテランから若手、さらには海外出身の仲間までが同じ情報に基づいて迷いなく行動できる体制を構築しています。

この仕組みを動かすエンジンが、10年以上磨き続けてきた独自のマネジメントモデル「NISSYO PDCAサイクル※2」です。全社員がデータに基づき、1日、1ヶ月、半年、1年という単位で自ら立てた計画を検証し、改善を積み重ねる。このサイクルを爆速で回し続けることで、時代の変化を先取りし、お客様の期待を超えるスピードと品質を提供し続けます。

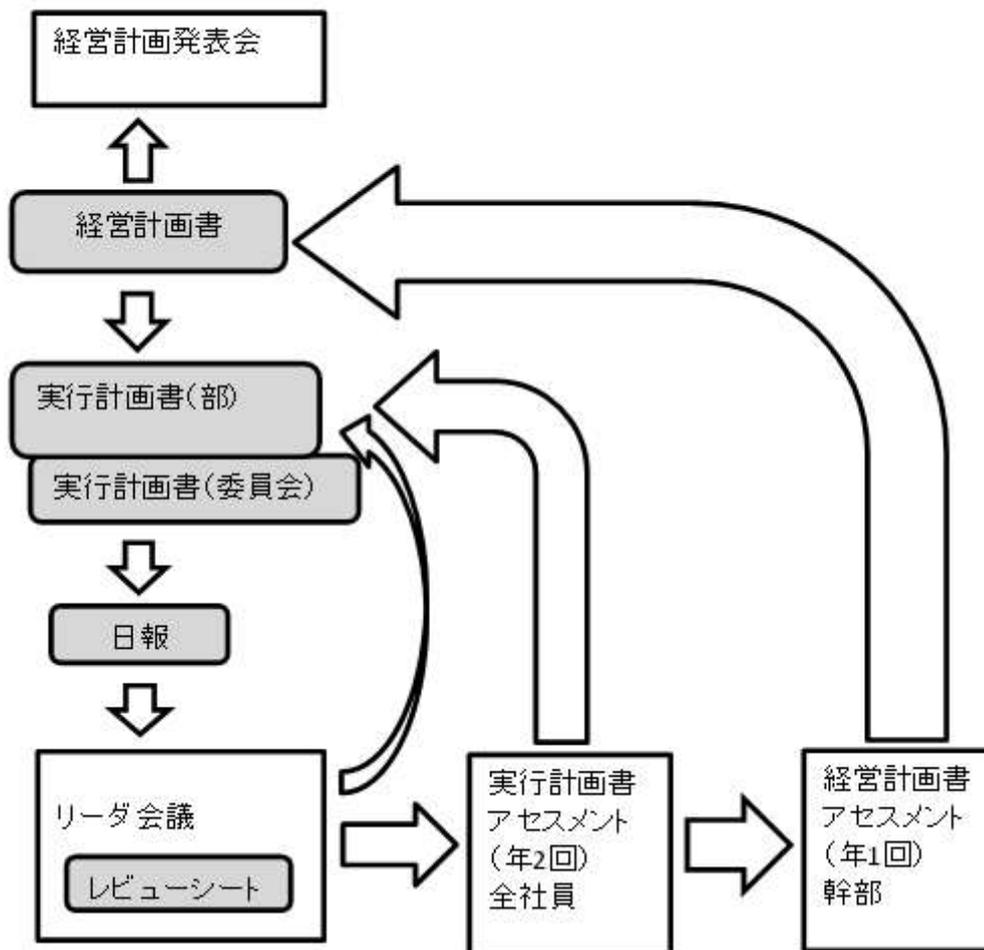
私たちはデジタルで顧客や社会のニーズに応える「DX」とエネルギー効率を高める「GX」を両立させ、未来に向けた投資を続けて成長を加速させます。そして、日本の製造業の「アスヨクDX」を実現します。

※1 アスヨクDX：「デジタルの力で明日を良くしていこう」というコンセプトで自社制作したクラウド型のポータルサイトのこと（商標登録）



※2 NISSYO PDCAサイクル：当社のマネジメントサイクルのモデルであり、毎年作成する経営計画書を中心として、部門毎に進捗管理を行い、定期的に行われるアセスメントで振り返り、次期の課題を明確化して実行計画書を作成し、実施しています。

NISSYO PDCAサイクル



2. 企業理念・ビジョン・標語

■企業理念

私達はお客様に喜ばれる仕事を通して人材を育成し広く、社会に貢献する

■ビジョン

私たちは、日本発の高品質なものづくりを通して、社会を支え、未来を創る人材を育成し続けます。変化の激しい時代においても、学び、挑戦し、お客様の期待を超える価値を提供すること、地域・社会・社員と共に持続的な発展を目指します。

■標語

私達は下記の考え方を全社で共有し、日々の仕事や行動に反映し成果をあげます。

留まる事を選択すればいつの間にか時代に追いつかれ、追い越され、気が付けばわが社は一人取り残されてしまいます。そうならないように・・・

- 1 Change or Die 変わらないと無くなる
- 2 Fast eats Slow 早いものが、遅いものに勝つ

3. DX戦略

私たちは、上記のビジョンを実現するために下記のDX戦略を立案し、DX委員会を中心として 全社でDXに取り組んでいきます。

(1) データドリブン経営の実践

- ・ 製造データの有効利用
- ・ データ分析力の向上のための人材育成

(2) データ活用による現場改善と業務の最適化

- ・ 共通EDIによるサプライチェーンの強化
- ・ サイバーセキュリティ評価制度への対応

(3) 脱炭素化（GX）による持続的な成長

- ・ 環境に配慮した製品製造
- ・ SBTのScope1（燃料の燃焼）、Scope2（電気の使用料）

4. DX推進指標

当社は毎年売上の0.3%をDX推進のために投資し、下記指標を定め、DX委員会を中心として「NISSYO PDCAサイクル」に沿ってビジネス環境の変化に迅速に対応できるようにDXに取り組みます。

(1) データドリブン経営の実践

1) 製造データの有効利用

対象製品のリードタイムを2028年までに10%削減する。

2) データ分析力の向上のための人材育成

2028年6月までにデジタル人材を正社員の30%まで向上させる。

(2) データ活用による現場改善と業務の最適化

1) 共通EDIによるサプライチェーンの強化

発注プロセスの作業効率を2028年までに20%向上させる。

2) サイバーセキュリティ評価制度への対応

2027年6月までに★3つ取得

(3) 脱炭素化（GX）による持続的な成長

1) 環境に配慮した製品製造

環境配慮製品を2028年までに5個製作

2) SBTのScope1（燃料の燃焼）、Scope2（電気の使用料）

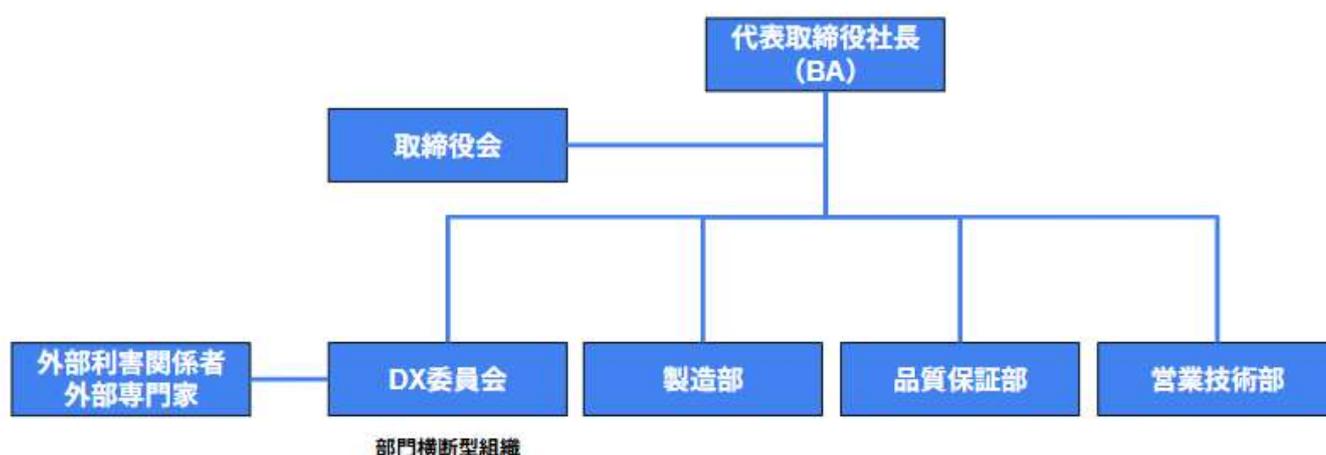
2030年までに42%削減

5. 体制、人材育成

当社は、以下の組織によりDXの推進を強化するとともに、DX委員会※3を中心として、必要なデジタル人材の育成に努めます。

ITパスポート、G検定、Googleデジタルワークショップの合格を目標とし、評価及び報奨制度を整備して各自の自発的な学習を促進しています。また、年度計画に定期的なデジタル教育を組み込み実施しています。

- ・※3 DX委員会（各部門から人材を結集した委員会組織）



6. デジタル技術、デジタル環境整備

弊社は、DX推進のためにDX委員会を開催し、定期的に既存システムの見直し・改善や新規システムの導入を行いながらデジタル技術の活用や環境整備に取り組みます。

7. 社長メッセージ

DX認定の更新を迎え、改めて思うのは「やっぱり企業は人だな」ということです。私が社長になって30年以上、毎年経営計画書に夢を書き込んできましたが、それを叶えてくれるのは立派なシステムではなく、共に学び、挑戦してくれる社員のみなのです。

最近の私の最大の関心事は、「学び続ける人材の育成」です。当社では現在、国家試験「ITパスポート」の合格者が23名に達し、AIリテラシーを証明する「G検定」も8名が取得しました。社員の挑戦を全力で応援したいので、合格時にはお祝金を贈り、さらにその後の2年間は学びを仕事に活かすための「ご褒美」を毎月支給しています。中小企業としては「おかしい」と言われる投資かもしれませんが、これこそが「未来の税金を作る」ための最高の投資だと確信しています。

私たちのデジタル戦略は非常にシンプルです。

第一に、外部の汎用ソフトを徹底的に使いまわすこと。変化の速い時代に合わせ、Googleプラットフォームなどの優れた既存ツールをスピーディーに導入し、現場の課題解決に即座に充当しています。

第二に、自分用に特別なカスタマイズはしないという原則を貫いています。道具に合わせて自分たちのやり方を変えることで、業務を標準化し、属人化を排除した「強い組織」を作っています。

第三に、複数の汎用ソフトをクラウド上で連携させ、必要なデータを社内全体で使いまわす仕組みを構築しています。これにより、85歳のパート社員から経営層までリアルタイムで同じデータを見て、自ら考え、判断できる「データドリブン経営」を実現しています。

AIは人を置き換えるものではありません。面倒なバックヤードの仕事をAIという「有能な相棒」に任せることで、私たちは「人の手によるものづくり」の強みを活かし、お客様に価値創造を届けるプロ集団であり続けたいと考えています。

2030年の売上高100億円。これは決して夢物語ではなく、今の私たちの歩みの先にある確かな未来です。

「デジタルで明日を良くする」-アスヨクDXの精神で、地域社会と日本のものづくりをさらに元気にしていきます。これからもNISSYOの進化に、どうぞご期待ください。

2026年3月5日

株式会社NISSYO

代表取締役社長 久保 寛一